

淡路瓦

施工例写真集 TRADITION & TECHNOLOGY



**Awaji Kawara**

# Awaji Kawa

## 日本の伝統美を受け継ぎ、 現在そして次世代を見つめます。

日本における瓦づくりの歴史は約1,400年前、飛鳥時代にまで遡るといわれています。

淡路島での瓦づくりはその数百年後にはじめられた、と伝えられています。

奈良時代から、本土と四国を結ぶ官道四国街道の要衝として栄えた地であったことを思えば、この街道を通り、奈良の都に淡路島の瓦が運ばれたことでしょう。

瓦づくりは「一に土、二に窯、三に細工」と言われ、土が品質に大きく影響します。

可塑性が良く収縮率の少ない良質の粘土で造られる淡路瓦は、品質日本一の折紙が付けられています。

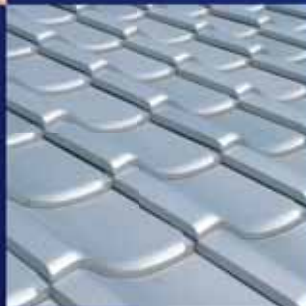
先人から子々孫々と受け継がれ、知恵と美意識に磨かれ400年の伝統を刻んだ淡路瓦。

日本の屋根を代表する瓦として、その巧みな組み合わせにより、

あらゆる建築物、建築様式に飽きることのない自然の風合美と普遍美を表現し、都市の街並みや田園風景にしっとりとした調和と奥深い情緒を醸し出します。

淡路瓦は本物の手応えと時代性を求めながら、

柔軟な発想に基づき未来を広く展望し、常に新しい価値を創造していきます。



ara



静岡県藤枝市『心岳寺』

# C o n t e n t s



## 和風瓦 05

永い歴史の中で洗練された施工技術能力に支えられ建築様式の、真・行・草・あるいはモダン様式などにもフレキシブルに対応でき、それぞれにマッチする意匠性を発揮します。役物瓦には種類が多くそのデザインは繊細で機能美があり最適に組み合わせれば絶妙の構成美を演出できます。

和瓦

本葺瓦

本葺一体瓦

黒いぶし瓦



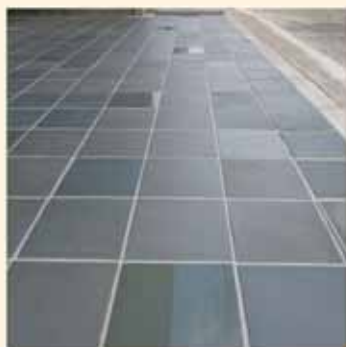
## 洋風瓦 19

和瓦の持つ独自の質感と優れた機能に、洋瓦の持つモダンなフォルムが調和した平板瓦。整然と並んだ直線的ラインがシンプルな美しさを奏でます。また、伝統的な焼き手法により生まれる色合いは味わい深くいつまでも美しさを保ちます。

平板瓦

S瓦

その他




## 景観材 27

伝統を受け継ぐ屋根材としての風格をそのままに、屋根に葺くばかりではなく床や壁、さらには公園や歩道にも利用されています。デザイン性が高く、洗練された景観材として演出できます。

壁材

敷き瓦



淡路瓦の特長 ③③

淡路瓦の性能と機能 ③③

淡路いぶし瓦の種類 ③⑤

淡路瓦ご利用に際してのお願い ④②

# 和風瓦

和瓦

本葺瓦

本葺一体瓦

黒いぶし瓦

## 深淵の銀色が醸し出す気品。

いつの時代にも耐える形状と色調。

深淵の銀色が醸し出す気品と風格が、日本建築だけでなく  
広く美術館やホテル、学校など様々な建物に使われ  
周辺環境に豊かな個性を添えています。



兵庫県南あわじ市『S邸』



静岡県藤枝市『長楽寺』









香川県高松市『M邸』



兵庫県西宮市『甲東園の家』



兵庫県南あわじ市『H邸』



兵庫県南あわじ市『T邸』



徳島県徳島市『徳島の家』



徳島県鳴門市『川内町の家』



兵庫県南あわじ市『M邸』



笠堀 (伝統)



笠堀 (風格)



垂紐付丸



丸棧垂付目板



菱のし



海椿 (窯変)



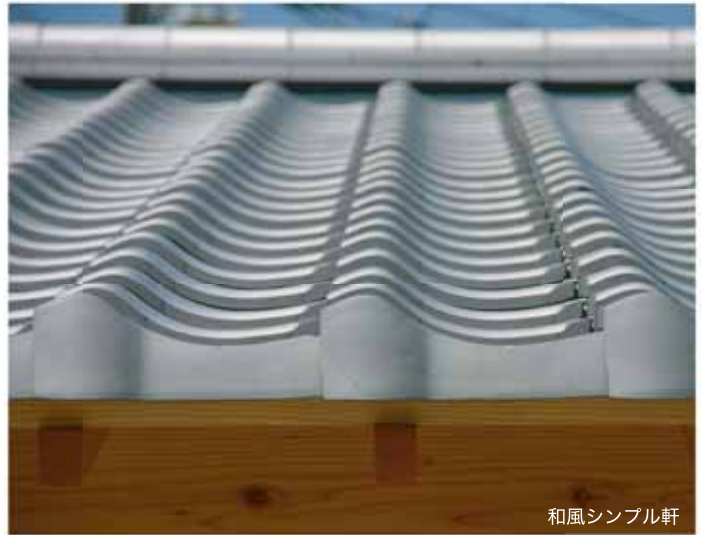
一文字軒



石持万十軒



紋入万十軒



和風シンプル軒



カマ軒



万十軒



中付袖



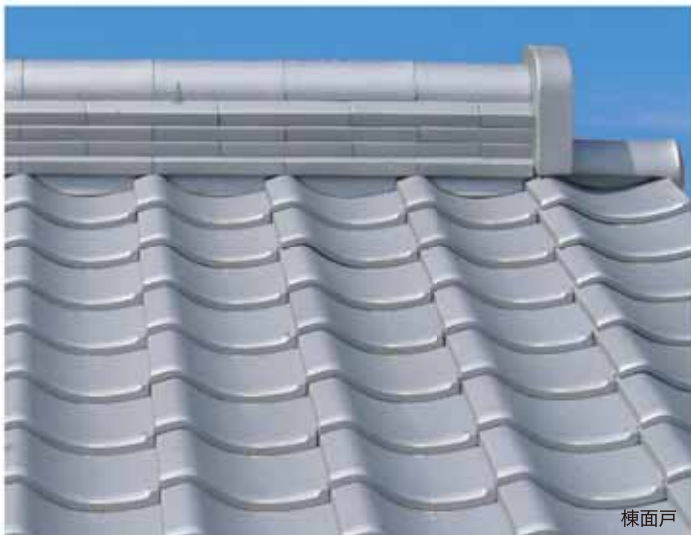
中付刻み袖



紐付袖



切袖



棟面戸



井筒のし



鹿児島県指宿市『薩摩伝承館』





愛媛県八幡浜市『藏福寺』



香川県さぬき市『M邸』



兵庫県洲本市『ウエルネスパーク五色 菜の花ホール』



兵庫県洲本市『広石小学校』



兵庫県南あわじ市『辰美小学校』



兵庫県洲本市『えるる五色』



兵庫県淡路市『夢舞台国際会議場』





広島県呉市『音戸市民センター』





兵庫県篠山市『河原町妻入商家群』（黒いぶし瓦）





高知県高知市『農の家』(シノギ棧黒いぶし瓦)



兵庫県南あわじ市『墓公園 東屋』(黒いぶし瓦)



# 洋風瓦

平板瓦

S瓦

その他

## 洗練された感性を融合。

光を愛で、風を語り、雨を詠う日本の精神に  
欧州の洗練された感性を融合した平板瓦。  
直線的なラインがシンプルな美しさを奏で  
現代建築の美を引き立てます。



兵庫県南あわじ市「N邸」(商品名/ファンタジア)



兵庫県南あわじ市『ホテル アナガ』（S形陶器瓦）



広島県福山市『S邸』（F形陶器瓦／クラシックグリーン色）



兵庫県淡路市『I邸』（F形陶器瓦／新銀色）



兵庫県淡路市『S邸』(F形陶器瓦/新銀色)



兵庫県南あわじ市 (F形いぶし瓦)



大阪府交野市『Y邸』(F形いぶし瓦/銀陵)



神奈川県鎌倉市『宗達』(いぶし瓦/海椿瓦)



兵庫県南あわじ市『ホテル アナガ』（S形陶器瓦）



福岡県北九州市『O邸』（S形瓦/窯変ダーク色）



兵庫県淡路市『仁井団地』（S形陶器瓦）





兵庫県洲本市『洲本市五色診療所』（S形窯変瓦）



兵庫県洲本市『M邸』（S形窯変瓦）





愛媛県『N邸』（ファンタジア）



兵庫県淡路市『ニース』（ファンタジア）



兵庫県洲本市（スーパーセラウェーブ）



兵庫県南あわじ市『松帆南保育園』（陶器瓦／MS-117）



兵庫県伊丹市（陶器瓦／AM-1）



兵庫県南あわじ市（陶器瓦／AM-II）

# 景観材

壁材

敷き瓦

優しくたくましい質感や表情が  
建築空間の造形美を演出します。

未知なる可能性を求めて。  
屋根材としての風格をそのままに、  
瓦に新たな息吹を。



兵庫県神戸市「リップルテラス舞多間／淡路瓦の庭」



兵庫県南あわじ市『淡路人形座』全景



兵庫県南あわじ市『淡路人形座』観客席（壁瓦／古のし瓦）



兵庫県神戸市『県立工業技術センター』(壁瓦/F形いふし瓦)



台湾『老乾杯』(壁瓦/波型割りはたボーダー瓦)



兵庫県明石市『太陽生命明石支店』(壁+床/黒陶窯変瓦)



兵庫県淡路市『スターバックス淡路SA店』（壁／割りはだボーダー瓦）



兵庫県南あわじ市『S邸』（切文字／VASARA）



大阪府大阪市『なかの家 ルクア店』（壁／いぶし海積瓦）



京都府京都市『リスン京都』(いぶし敷瓦200角)



滋賀県『ギャラリー サラ』(いぶし敷瓦100角)



兵庫県南あわじ市『A邸』(敷瓦商品名/円座)



兵庫県南あわじ市『けひの海』(黒陶窯変瓦300角)





兵庫県南あわじ市『O邸』(壁瓦/IBUSHI BLOCK)



兵庫県淡路市『猫美術館』(敷瓦/いぶし小端立て瓦)



兵庫県南あわじ市『浅井製菓』(壁瓦/IBUSHI BLOCK)



兵庫県淡路市『淡路瓦の庭』(いぶし敷瓦)



兵庫県淡路市『赤い屋根』モニュメント

## 淡路瓦の特長

### ■粘土

淡路の粘土は可塑性が良く、収縮率が少ないため精度の高い成形ができます。大きな特長として、ナチュラルマテリアルでありながら、粘土組成が瓦の表面に高品位炭素膜を形成させる温度と、その基板である素地を最高の硬度が得られるまで焼結させる温度とが完全に一致していることです。

さらに、粒度配分が最適であるため、素地表面の肌理が細やかで、磨きの工程を加え絨のような肌になります。

### ■焼成

基板との密着性に優れた褪色性に強い光沢のある炭素膜を瓦の表面に析出する方式を確立。炭素膜は厳しい気候条件にも非常に強い物質です。瓦表面の微妙な凹凸が光を乱反射し、独自の味わいのあるいぶし光沢が、風合いの良い質感を醸し出します。

### ■成形

良質粘土を合理的にブレンドし、独自の入念な工程を経て焼成します。淡路では、先人の叡智と美意識に磨かれ、意匠性と機能性を備えた千数百種もの豊富な形の瓦を製造しています。

## 淡路瓦の性能と機能

### 耐震性

屋根瓦を選ぶ場合、日本では地震や台風に対する考慮が必要です。特に平成7年1月17日発生した阪神淡路大震災での屋根瓦に対する手痛い教訓をもとに、屋根瓦の重量(軽量化)及び屋根葺き工法の改善を進めています。

屋根瓦は正しく施工が行われれば、地震や台風に対しても安全です。

### 耐火性

瓦は安全な不燃材であり、耐火材です。火災の場合でも、ひび割れ、変形、溶解せず、有毒なガスも発生しません。火の粉にも大丈夫で、もらい火しにくいことも知られています。

淡路瓦は1000℃～1060℃の単窯、またはトンネルキルンで長い時間をかけてじっくり焼き締めます。そのため、耐火性能の面でも安心な屋根材です。

### 耐熱性

屋根材には、一年を通しての気候変化とは別に、朝・昼・夜の一日の気温変化に対する性能も求められます。

たとえば、真夏には70～80℃にもなる表面温度がにわか雨により急冷されると、急激な熱衝撃を受けます。

これによって、ひび割れや剥離等の変化を起こさない耐熱性のある屋根材です。



## 耐久性

瓦および屋根瓦の耐久性は、建築の歴史が如実に物語っています。城郭や寺院はもちろん、古い城下町、町村の街並み、家並みの屋根に、その美しい「葺」はいまもなお残っています。

瓦の寿命は100年といわれています。しかし、実際には、1000年以上の風雪に耐え、まだこれから何百年も長生きすると思われる古い瓦屋根は歴史が証明する丈夫で長持ちな屋根材です。

## 防水性

日本の年間平均降水量は1500~2000ミリと言われていて、雨の多い日本の屋根に求められる第一の性能は、やはり防水性と言えましょう。

淡路瓦の陶器瓦は表面のガラス質、いぶし瓦は炭素膜により水をはじきます。また滑らかで水はしりがたいへん良く、浸透性の低い性質をもっています。

## 耐圧性

淡路瓦はJIS規格値よりもはるかに大きな強度をもち、耐圧性も万全です。本来、屋根は積雪以外には荷重のかかる場所ではありません。しかし、テレビアンテナ取付工事などにより、屋根に人が乗った時の局所的な集中荷重は80~100kgf(784~980N)あり、それに充分耐える性能があります。

## 耐寒性

かつて寒冷地では、冬季に瓦の凍害現象（剥離や亀裂）が発生するため、瓦屋根はほとんど施工されませんでした。この原因は、瓦中に含まれた水が氷結し、その際に約9%の体積膨張を起こし圧力をかけるためです。

現在では、吸水率の低下、強度の増大など、瓦の性能向上に努めています。

## 通気性

建築材料は時代の変化とともに進歩し、住まいに気密性と断熱性の高い建材が普及しています。しかし、高温多湿の日本の夏を快適に設計するには、適度な通気性が必要です。

昔から言われてきたことですが、屋根瓦が屋根裏の自然換気を促す屋根材だからです。野地に密着した屋根材と異なり、瓦屋根には瓦の重なり部分に空気だけが通れる道があります。この空間により通気、換気を行い、屋根の湿度、温度を調節する、屋根全体がエアコントロールの構造になっています。

## 安全性

淡路瓦の主原料は粘土。アスベスト(石綿)を一切使用していません。人にも環境にもやさしい屋根材です。



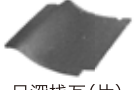

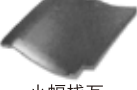











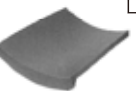





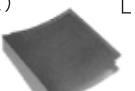














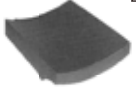
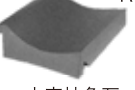


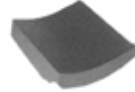






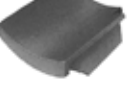

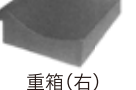
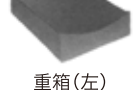








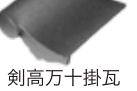

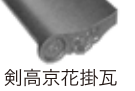
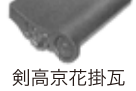


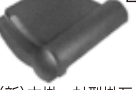





また、酸やアルカリ等の化学変化にも強い素材で環境破壊による酸性雨や沿岸付近の塩害にも、表面の退色、変色がほとんどなく、いつまでも美しさを保ちます。

## 経済性

屋根は建物の外観を決定し、かつさまざまな自然環境から生活を守る、もっとも重要な部分です。また、瓦屋根の通気性は温度や湿度を調節し、その断熱性能は夏季・冬季の冷暖房費を節減します。家は数十年にわたり住み、さらに住み継がれていくものですから、耐久材として長い年月を考えれば、瓦屋根の費用はたいへん経済的です。

# 淡路いぶし瓦の種類

(K)-切落、(M)-面取、R-右、L-左

AW・ J-10 (K)  棧瓦(切落)	AW・ J-10 (M)  棧瓦(面取)	AW・ J-11 (K)  足深棧瓦(片) (中深)	AW・ J-12 (M)  足深棧瓦(両) (本深切)	AW・ J-13 (M)  小幅棧瓦 (地割調整用)	AW・ J-14 (M)  左棧瓦	AW・ J-16 (M)  輪型雪止瓦	AW・ J-17-1 (K)  シノギ棧瓦
AW・ J-23 (M) R  中付袖瓦(右)	AW・ J-23 (M) L  中付袖瓦(左)	AW・ J-24 (M) R  見せ掛け袖瓦(左) (横車)(右)	AW・ J-24 (M) L  見せ掛け袖瓦(左) (横車)(右)	AW・ J-24-1 (K) R  見せ掛け袖瓦 (横車)(つづ入り)(右)	AW・ J-24-1 (K) L  見せ掛け袖瓦 (横車)(つづ入り)(左)	AW・ J-24-1-1 (M) R  丸伏せ見せ掛け袖瓦 (横車)(つづ入り)(右)	AW・ J-24-1-1 (M) L  丸伏せ見せ掛け袖瓦 (横車)(つづ入り)(左)
AW・ J-26-1 L  平袖角瓦無地(左)	AW・ J-26-2 L  平袖角瓦唐草入(左)	AW・ J-26-3 (K) R  積平(積蓋)袖瓦 (刻み平)(右)	AW・ J-26-4 R  横平袖角瓦無地 (右)	AW・ J-26-5 R  横平袖角瓦唐草入 (右)	AW・ J-26-6 (K) R  深袖瓦(右)	AW・ J-26-6 (K) L  深袖瓦(左)	AW・ J-26-6 (M) R  深袖瓦(右)
AW・ J-30-1  雀口付万十軒瓦	AW・ J-30-2  シノギ棧万十軒瓦	AW・ J-31  万十唐草軒瓦	AW・ J-32  巴付唐草(京花) 軒瓦	AW・ J-33  石持万十軒瓦	AW・ J-34  一文字軒瓦 (1寸5分)	AW・ J-34-1  一文字軒瓦(2寸)	AW・ J-34-3  平一文字(平鎌) (1寸5分)
AW・ J-51 R  万十唐草袖角瓦(右)	AW・ J-51 L  万十唐草袖角瓦(左)	AW・ J-52 R  巴村唐草(京花) 袖角瓦(右)	AW・ J-52 L  巴村唐草(京花) 袖角瓦(左)	AW・ J-53 R  石持万十袖角瓦(右)	AW・ J-53 L  石持万十袖角瓦(左)	AW・ J-54 R  一文字袖角瓦 (1寸5分)(右)	AW・ J-54 L  一文字袖角瓦 (1寸5分)(左)
AW・ J-58 R  鎌袖角瓦(右)	AW・ J-58 L  鎌袖角瓦(左)	AW・ J-59 R  鎌唐草袖角瓦(右)	AW・ J-59 L  鎌唐草袖角瓦(左)	AW・ J-64 R  中付袖万十袖角瓦 (右)	AW・ J-64 L  中付袖万十袖角瓦 (左)	AW・ J-65 R  見せ掛け袖角瓦 (横車)(右)	AW・ J-65 L  見せ掛け袖角瓦 (横車)(左)
AW・ J-66-2 R  中付刻み袖角瓦(右)	AW・ J-66-2 L  中付刻み袖角瓦(左)	AW・ J-68 R  重箱(右) (晒し葺き・奴葺き)用	AW・ J-68 L  重箱(左) (晒し葺き・奴葺き)用	AW・ J-70 R  万十切隅瓦(組) (右)	AW・ J-71 L  万十唐草切隅瓦(組) (左)	AW・ J-72 R  巴付唐草(京花) 切隅瓦(組)(右)	AW・ J-73 L  石持万十切隅瓦(組) (左)
AW・ J-90 L  万十掛瓦(尺)(左)	AW・ J-90-1 R  万十掛瓦 (尺2寸)(右)	AW・ J-90-1 L  万十掛瓦 (尺2寸)(左)	AW・ J-90-5 L  剣高万十掛瓦 (尺)(左)	AW・ J-90-6 R  剣高万十掛瓦 (尺2寸)(右)	AW・ J-90-6 L  剣高万十掛瓦 (尺)(左)	AW・ J-90-7 R  剣高京花掛瓦 (尺)(右)	AW・ J-90-7 L  剣高京花掛瓦 (尺)(左)
AW・ J-100-1 L  面戸付剣高万十掛瓦 (尺2寸)(左)	AW・ J-103-1 R  (新)本掛一対型掛瓦 (右)	AW・ J-103-1 L  (新)本掛一対型掛瓦 (左)	AW・ J-103-2 R  (新)本掛一対型剣高掛瓦 (右)	AW・ J-103-2 L  (新)本掛一対型剣高掛瓦 (左)	AW・ J-200  厚のし瓦	AW・ J-201  大幅のし瓦	AW・ J-202-1  片台面のし瓦


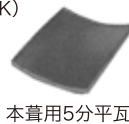
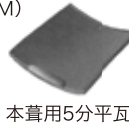
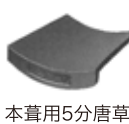
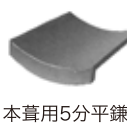
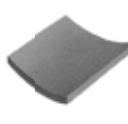
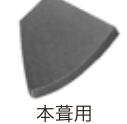
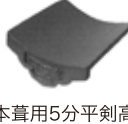




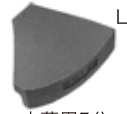

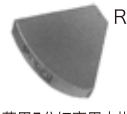
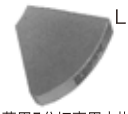











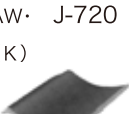
















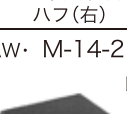
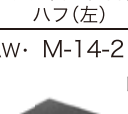
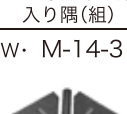

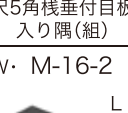
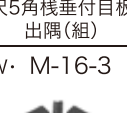

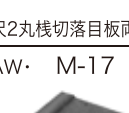
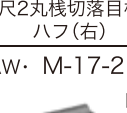
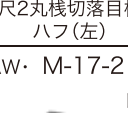
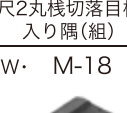
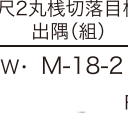
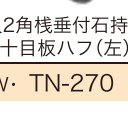
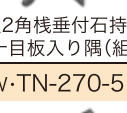
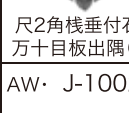
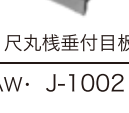
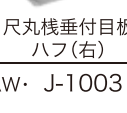
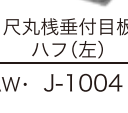
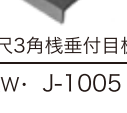
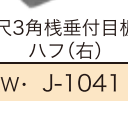
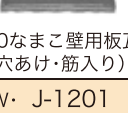
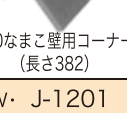
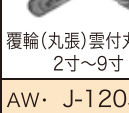
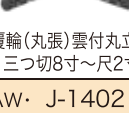
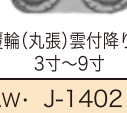
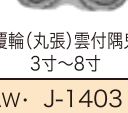
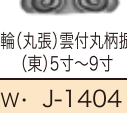
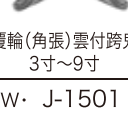

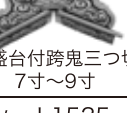
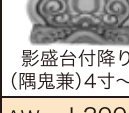

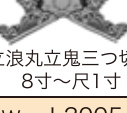


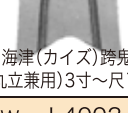
AW· J-17-2  煙突丸窓瓦1枚物 (64判)	AW· J-17-3  煙突丸窓瓦2枚物 (64判)	AW· J-20 (K) R  袖瓦(右)	AW· J-20 (K) L  袖瓦(左)	AW· J-20 (M) R  袖瓦(右)	AW· J-20 (M) L  袖瓦(左)	AW· J-21 (M) R  紐袖瓦(右)	AW· J-21 (M) L  紐袖瓦(左)
AW· J-24-2 (K) B  丸伏せ見せ掛け袖瓦 (横車) (右)	AW· J-24-2 (K) L  丸伏せ見せ掛け袖瓦 (横車) (左)	AW· J-24-2-1 (M) R  丸伏せ見せ掛け袖瓦 (横車) (右)	AW· J-24-2-1 (M) L  丸伏せ見せ掛け袖瓦 (横車) (左)	AW· J-25-1 (K) R  刻み袖瓦 (働き長さ5寸) (右)	AW· J-25-1 (K) L  刻み袖瓦 (働き長さ5寸) (左)	AW· J-26 (K) R  平(積蓋)袖瓦 (刻み平) (右)	AW· J-26-1 (K) R  平袖角瓦無地(右)
AW· J-26-6 (M) L  深袖瓦(左)	AW· J-26-7 (M) R  深切袖瓦 (深切棧瓦用) (右)	AW· J-26-7 (M) L  深切袖瓦 (深切棧瓦用) (左)	AW· J-26-9 (K) R  中付刻み袖瓦 (働き長さ4寸) (右)	AW· J-26-9 (K) L  中付刻み袖瓦 (働き長さ4寸) (左)	AW· J-26-11 (K) R  深切シノギ棧紐袖瓦 (右)	AW· J-26-11 (K) L  深切シノギ棧紐袖瓦 (左)	AW· J-30  万十軒瓦
AW· J-35  中村一文字軒瓦	AW· J-36  万十一文字軒瓦 (淀屋)	AW· J-36-1  石持万十一文字軒瓦 (淀屋石持)	AW· J-38  鎌軒瓦(無地)	AW· J-39  鎌唐草軒瓦	AW· J-40  剣高万十軒瓦	AW· J-50 (R)  万十袖角瓦(右)	AW· J-50 (L)  万十袖角瓦(左)
AW· J-54-1 (R)  一文字袖角瓦 (2寸) (右)	AW· J-54-1 (L)  一文字袖角瓦 (2寸) (左)	AW· J-55 (R)  中付袖一文字袖角瓦 (右)	AW· J-55 (L)  中付袖一文字袖角瓦 (左)	AW· J-56 (R)  万十一文字袖角瓦 (淀屋) (右)	AW· J-56 (L)  万十一文字袖角瓦 (淀屋) (左)	AW· J-56-1 (R)  石持万十一文字袖角瓦 (淀屋) (右)	AW· J-56-1 (L)  石持万十一文字袖角瓦 (淀屋) (左)
AW· J-65-1 (R)  見せ掛袖角瓦(横車) (つづ入り) (右)	AW· J-65-1 (L)  見せ掛袖角瓦(横車) (つづ入り) (左)	AW· J-65-2 (R)  丸伏せ見せ掛袖角瓦 (横車) (右)	AW· J-65-2 (L)  丸伏せ見せ掛袖角瓦 (横車) (左)	AW· J-65-3 (R)  丸伏せ見せ掛(横車) 京花唐草袖角瓦(右)	AW· J-65-3 (L)  丸伏せ見せ掛(横車) 京花唐草袖角瓦(左)	AW· J-66-1 (R)  刻み袖(唐草彫刻入り) (つづ入り袖角瓦) (右)	AW· J-66-1 (L)  刻み袖(唐草彫刻入り) (つづ入り袖角瓦) (左)
AW· J-74 (R) (L)  一文字切隅瓦1寸5分 (組) (右・左)	AW· J-74-1 (R) (L)  一文字切隅瓦2寸 (組) (右・左)	AW· J-76 (R) (L)  万十一文字切隅瓦 (淀屋) (組) (右・左)	AW· J-78 (R) (L)  鎌切隅瓦 (組) (右・左)	AW· J-79 (R) (L)  鎌唐草切隅瓦 (組) (右・左)	AW· J-80 (R) (L)  剣高万十切隅瓦 (組) (右・左)	AW· J-84 (R) (L)  廻り隅瓦 (万十トンビ)	AW· J-90 (R)  万十掛瓦(尺) (右)
AW· J-91 (L)  万十唐草掛瓦 (尺) (左)	AW· J-92 (R)  巴付唐草(京花) 掛瓦(尺) (右)	AW· J-92 (L)  巴付唐草(京花) 掛瓦(尺) (左)	AW· J-93 (R)  石持万十掛瓦 (尺) (右)	AW· J-93 (L)  石持万十掛瓦 (尺) (左)	AW· J-94 (L)  一文字掛瓦(左)	AW· J-98 (R)  鎌掛瓦 (尺2寸) (右)	AW· J-100-1 (R)  面戸付剣高万十掛瓦 (尺2寸) (右)
AW· J-202-2  両紐台面のし瓦	AW· J-202-3  片紐台面のし瓦	AW· J-203  薄のし瓦	AW· J-203-1  糸のし瓦	AW· J-204  紐のし瓦 (片紐のし) (大)	AW· J-205  紐のし瓦 (中) (1寸)	AW· J-206  紐のし瓦 (小) (5分)	AW· J-207  雨切りのし瓦

AW・ J-208  菱のし瓦 (ダイヤのし) (3~6個)	AW・ J-209  松皮菱のし瓦 (3個)	AW・ J-210  箱のし瓦 (大名のし)	AW・ J-211  紐付箱のし瓦 (紐付大名) (5分)	AW・ J-212  削のし瓦	AW・ J-213  のし止め瓦 (のし鼻) (2段用)	AW・ J-213-1  のし止め瓦 (のし鼻) (3段用)	AW・ J-213-3  木の葉のし瓦
AW・ J-221 L  隅面戸瓦 (櫛形面戸瓦) (左)	AW・ J-222  面戸付土居丸瓦	AW・ J-222-1 R  抱き丸(右)	AW・ J-222-1 L  抱き丸(左)	AW・ J-230  5寸紐丸瓦	AW・ J-231  5寸紐丸瓦両曲り	AW・ J-231-2  5寸紐丸瓦両棧	AW・ J-231-3  5寸紐丸瓦三つ又
AW・ J-231-12  6寸紐丸瓦	AW・ J-231-13  6寸紐丸瓦巴(紐付)	AW・ J-231-14  6寸紐丸瓦巴曲り	AW・ J-231-15  6寸紐丸瓦両棧	AW・ J-231-16  6寸紐丸瓦三つ又	AW・ J-231-17  6寸紐丸瓦四つ又	AW・ J-231-18 R  6寸紐丸瓦振れ巴 (右)	AW・ J-231-18 L  6寸紐丸瓦振れ巴 (左)
AW・ J-231-27  7寸紐丸瓦カッポン	AW・ J-231-28  8寸大紐丸瓦	AW・ J-232  棟素丸瓦(径5寸)	AW・ J-233 R  棟素丸瓦曲り(右)	AW・ J-233 L  棟素丸瓦曲り(左)	AW・ J-233-1  棟素丸瓦三つ又	AW・ J-233-2  棟素丸瓦四つ又	AW・ J-233-3  棟素丸瓦止め(端)
AW・ J-253  丸棧伏間(雁振)瓦止め (端)(扇型)	AW・ J-253-1  丸棧伏間(雁振)瓦隅 (組)	AW・ J-253-2  丸棧伏間(雁振)瓦 ナマ隅(別注)	AW・ J-253-9  丸棧伏間(雁振)瓦 塀隅飾り打出の小籠	AW・ J-253-11  紐付雁振瓦	AW・ J-253-12  紐付雁振瓦両棧	AW・ J-253-13  紐付雁振瓦曲り	AW・ J-253-14  紐付雁振瓦止め(端) (扇型)
AW・ J-263-4  幅広京伏間(垂付雁振) 瓦止め(端)(扇型)	AW・ J-270  京箱丸棧(大)	AW・ J-270-1  京箱丸棧両棧	AW・ J-270-2  京箱丸棧曲り	AW・ J-270-3  京箱丸棧止め(端)	AW・ J-272  京箱丸棧(小)	AW・ J-273  京箱角棧(伊勢箱)(大)	AW・ J-273-2  京箱角棧(伊勢箱)曲り
AW・ J-287-4  尺丸棧雁振	AW・ J-287-5  尺丸棧雁振曲り	AW・ J-287-6  尺丸棧雁振止め(端)	AW・ J-287-8  尺丸棧雁振両棧	AW・ J-287-9  尺角棧雁振	AW・ J-293  付丸	AW・ J-293-1  付丸曲り	AW・ J-293-2  付丸止め(端)
AW・ J-296  のし丸	AW・ J-296-1  のし丸曲り	AW・ J-296-2  のし丸止め(端)	AW・ J-297-4  垂れ紐付きのし丸	AW・ J-297-5  垂れ紐付きのし丸両棧	AW・ J-297-6  垂れ紐付きのし丸曲り	AW・ J-297-7  垂れ紐付きのし丸止め (端)	AW・ J-300  棟巴(跨巴)瓦 万十(8寸)
AW・ J-305-2  万十三日月巴(8寸)	AW・ J-305-3  万十軒巴(尺2寸)	AW・ J-305-4  牡丹二の巴	AW・ J-306  半月巴万十	AW・ J-307  半月巴石持(ベタ)	AW・ J-307-1  浪千鳥半月巴	AW・ J-307-2  分銅巴	AW・ J-308  半月鬼
AW・ J-311-4  鯉模様入隅巴	AW・ J-312  網笠隅巴瓦(鎌棟用)	AW・ J-313  駒隅巴瓦(一文字用) 1寸5分	AW・ J-313-1  駒隅巴瓦(一文字用) 2寸	AW・ J-313-2  駒隅巴瓦(一文字用) 2寸5分	AW・ J-320  棟込瓦菊	AW・ J-321  棟込瓦連結菊(3個)	AW・ J-322  棟込瓦輪違い

AW・ J-213-4  瓦万十のし(1個)	AW・ J-213-5  瓦万十のし(3個)	AW・ J-213-6  葺蛇の目万十のし瓦(3個)	AW・ J-213-7  瓦万十	AW・ J-213-8  青海波のし(輪のし)(3個)	AW・ J-213-9  三角波のし瓦	AW・ J-220  土居面戸瓦(櫛形面戸瓦)	AW・ J-221 R  隅面戸瓦(櫛形面戸瓦)(右)
AW・ J-231-4  5寸紐丸瓦四つ又	AW・ J-231-5 R L  5寸紐丸瓦振れ巴(右・左)	AW・ J-231-6  5寸紐丸瓦カッポン	AW・ J-231-7  5寸紐丸塀隅飾り恵比寿	AW・ J-231-8  5寸紐丸塀隅飾り大黒	AW・ J-231-9  5寸紐丸塀隅飾り立浪	AW・ J-231-10  5寸紐丸塀隅飾り鳩	AW・ J-231-11 (K)  5寸紐丸塀隅飾り桃
AW・ J-231-19  6寸紐丸瓦カッポン	AW・ J-231-20  7寸紐丸瓦	AW・ J-231-21  紐付き 紐なし	AW・ J-231-23  7寸紐丸瓦両棧	AW・ J-231-24  7寸紐丸瓦三つ又	AW・ J-231-25  7寸紐丸瓦四つ又	AW・ J-231-26 R  7寸紐丸瓦振れ巴(菱巴)(右)	AW・ J-231-26 L  7寸紐丸瓦振れ巴(菱巴)(左)
AW・ J-233-4  棟用素丸瓦(径6寸)	AW・ J-233-5  棟用素丸瓦(径7寸)	AW・ J-240  角棧伏間(雁振)瓦	AW・ J-241  角棧伏間(雁振)瓦両棧	AW・ J-242  角棧伏間(雁振)瓦曲り	AW・ J-243  角棧伏間(雁振)瓦止め(端)(扇型)	AW・ J-250  丸棧伏間(雁振)瓦	AW・ J-251  丸棧伏間(雁振)瓦両棧
AW・ J-260  京伏間(垂付雁振)瓦	AW・ J-261  京伏間(垂付雁振)瓦両棧	AW・ J-262  京伏間(垂付雁振)瓦曲り	AW・ J-262-1  京伏間(垂付雁振)瓦隅(組)	AW・ J-263  京伏間(垂付雁振)瓦止め(端)(扇型)	AW・ J-263-1  幅広京伏間(垂付雁振)瓦	AW・ J-263-2  幅広京伏間(垂付雁振)瓦両棧	AW・ J-263-3  幅広京伏間(垂付雁振)瓦曲り
AW・ J-273-3  京箱角棧(伊勢箱)止め(端)	AW・ J-275  京箱角棧(伊勢箱)(小)	AW・ J-285  亀伏間	AW・ J-286  亀伏間曲り	AW・ J-287  亀伏間止め(端)	AW・ J-287-1  新亀伏間	AW・ J-287-2  新亀伏間曲り	AW・ J-287-3  新亀伏間止め(端)
AW・ J-294  紐付き付丸	AW・ J-294-1  紐付き付丸両棧	AW・ J-294-2  紐付き付丸曲り	AW・ J-294-3  紐付き付丸止め(端)	AW・ J-295  垂れ紐付き付丸	AW・ J-295-1  垂れ紐付き付丸両棧	AW・ J-295-2  垂れ紐付き付丸曲り	AW・ J-295-3  垂れ紐付き付丸止め(端)
AW・ J-301  棟巴(跨巴)瓦尺石持(ベタ)	AW・ J-301-1  棟巴(跨巴)瓦8寸石持(ベタ)	AW・ J-303  棟巴(跨巴)瓦面戸付(万十)(8寸)	AW・ J-304  棟巴(跨巴)瓦中付万十巴	AW・ J-304-5  浪巴	AW・ J-304-7  一文字石持拌み巴	AW・ J-305-1  棟巴瓦模様入り(鶴)(尺)	AW・ J-305-1  棟巴瓦模様入り(亀)(尺)
AW・ J-308-1  千鳥半月巴	AW・ J-308-3  掛巴(万十)(尺2寸)	AW・ J-309  小巴瓦(尺)(末広巴万十)	AW・ J-309-2  小巴瓦(尺)(末広巴つづ入り)	AW・ J-309-4  小巴瓦(尺2寸)(末広巴石持)	AW・ J-310  隅巴瓦(万十)	AW・ J-311  隅巴瓦模様入り(つづ入り)	AW・ J-311-2  剣先模様入り隅巴
AW・ J-323  棟込瓦連結輪違い	AW・ J-324  棟込瓦松皮菱	AW・ J-325  棟込瓦青海波	AW・ J-325-1  棟込瓦井筒 2寸×6寸3分(小) 3寸6分×7分2分(大)	AW・ J-325-6  棟込瓦水板(装飾彫刻物)(鶴)(別注)	AW・ J-325-6  棟込瓦水板(装飾彫刻物)(亀)(別注)	AW・ J-330  巴蓋(おわん)	AW・ J-330-1  巴蓋(立浪)

AW・ J-330-2	AW・ J-330-3	AW・ J-330-4	AW・ J-330-5	AW・ J-330-7	AW・ J-330-8	AW・ J-330-10	AW・ J-330-11
巴蓋(牡丹)	巴蓋(菊)	巴蓋(鳩)	巴蓋(唐獅子)	巴蓋(桃)	巴蓋(鯉)	巴蓋(恵比寿)	巴蓋(大黒)
AW・ H-4-3	AW・ H-5	AW・ H-6	AW・ H-6-1	AW・ H-6-2	AW・ H-7	AW・ H-7-1	AW・ H-7-2
本葺用5分平鎌(無地)剣高軒瓦	本葺用5分唐草(模様入)掛瓦(巻の平)(右)	本葺用5分平鎌(無地)掛瓦(巻の平)(右)	本葺用5分唐草(模様入)剣高掛瓦(巻の平)(左)	本葺用5分平鎌(無地)剣高掛瓦(巻の平)(左)	本葺用5分二の平瓦(右)	本葺用5分二の平瓦(面戸付)(右左兼用)	本葺用5分一の平・二の平一体型掛瓦(右左兼用)(無地)
AW・ H-12	AW・ H-12-1	AW・ H-12-2	AW・ H-13	AW・ H-14	AW・ H-15	AW・ H-16	AW・ H-17-1
本葺用5分素丸瓦(本葺用)(7寸)	本葺用5分素丸瓦(本葺用)(8寸)	本葺用5分印籠(玉口)付紐丸(動き長さ7寸)	本葺用5分軒巴瓦(つづ入り)(尺)	本葺用5分軒巴瓦(つづ入り)(尺2寸)	本葺用5分拌み巴瓦(つづ入り)	本葺用5分隅巴瓦(つづ入り)	本葺用5分袖丸瓦(動き長さ7寸×垂れ3寸)(右)
AW・ H-21	AW・ H-22	AW・ H-23	AW・ H-25-1	AW・ H-25-2	AW・ H-25-4	AW・ H-25-5	AW・ H-25-6-1
本葺用5分箕甲(蟹)面戸瓦	本葺用5分棟面戸(土居面戸)瓦	本葺用5分隅面戸瓦(右)	本葺用鳥袂(付け丸用)	本葺用鳥袂(亀伏間用)	本葺用鳥袂(鷹振用)	本葺用鳥袂(紐付鷹振用)	本葺用鳥袂(素丸用)
AW・ CS-10-2	AW・ CS-10-2	AW・ CS-10-3	AW・ CS-10-4	AW・ M-10	AW・ M-10-1	AW・ M-10-2	AW・ M-10-2
S瓦袖瓦(右)	S瓦袖瓦(左)	S小丸瓦	Sトンビ	尺2角棧切落目板	尺2角棧切落目板両棧	尺2角棧切落目板ハフ(右)	尺2角棧切落目板ハフ(左)
AW・ M-12	AW・ M-12-1	AW・ M-12-2	AW・ M-12-2	AW・ M-13	AW・ M-13-1	AW・ M-13-2	AW・ M-13-2
尺5角棧切落目板	尺5角棧切落目板両棧	尺5角棧垂付目板ハフ(右)	尺5角棧切落目板ハフ(左)	尺5角棧垂付目板	尺5角棧垂付目板両棧	尺5角棧垂付目板ハフ(右)	尺5角棧垂付目板ハフ(左)
AW・ M-15	AW・ M-15-1	AW・ M-15-2	AW・ M-15-2	AW・ M-15-3	AW・ M-15-4	AW・ M-16	AW・ M-16-2
尺2丸棧垂付目板	尺2丸棧垂付目板両棧	尺2丸棧垂付目板ハフ(右)	尺2丸棧垂付目板ハフ(左)	尺2丸棧垂付目板入り隅(組)	尺2丸棧垂付目板出隅(組)	尺2角棧垂付石持万十目板	尺2角棧垂付石持万十目板ハフ(右)
AW・ M-18-2	AW・ M-18-3	AW・ M-18-4	AW・ T-270	AW・ T-270-1	AW・ T-270-2	AW・ T-270-3	AW・ T-270-4
尺3角棧垂付目板ハフ(左)	尺3角棧垂付目板入り隅(組)	尺3角棧垂付目板出隅(組)	敷瓦270角	敷瓦270二分の一角	敷瓦270三角半分	敷瓦270三角四分の一	敷瓦270段鼻
AW・ J-1042	AW・ J-1042	AW・ J-1043	AW・ J-1044	AW・ J-1045	AW・ J-1082	AW・ J-1082	AW・ J-1083
覆輪(角張)雲付丸立鬼4寸~9寸	覆輪(角張)雲付丸立鬼三つ切9寸~尺2寸	覆輪(角張)雲付降り鬼4寸~尺	覆輪(角張)雲付隅鬼4寸~8寸	覆輪(角張)雲付柄振鬼(東)4寸~8寸	鬘付雲付丸立鬼5寸~8寸	鬘付雲付丸立鬼三つ切9寸~尺1寸	鬘付雲付降り鬼5寸~8寸
AW・ J-1503	AW・ J-1504	AW・ J-1505	AW・ J-1511	AW・ J-1513	AW・ J-1515	AW・ J-1521	AW・ J-1523
海津(カイズ)降り鬼3寸~8寸	海津(カイズ)隅鬼5寸~6寸	海津(カイズ)柄振鬼(東)5寸~8寸	京海津(京風カイズ)跨鬼(丸立兼用)3寸~尺	京海津(京風カイズ)降り鬼4寸~8寸	京海津(京風カイズ)柄振鬼(東)6寸~8寸	旭海津(カイズ)跨鬼(丸立兼用)3寸~9寸	旭海津(カイズ)降り鬼3寸~9寸



AW· J-331  隔蓋蓋(立浪)	AW· H-1 (K)  本葺用5分平瓦 (切落)	AW· H-1-1 (M)  本葺用5分平瓦 (面取)	AW· H-2  本葺用5分唐草 (模様入)軒瓦	AW· H-3  本葺用5分平鎌 (無地)軒瓦	AW· H-4  本葺用5分敷平瓦	AW· H-4-1  本葺用 5分敷平切隅(左)	AW· H-4-2  本葺用5分平剣高 (模様入)唐草軒瓦
AW· H-7-3  本葺用5分の一の平・ 二の平一体型掛瓦 (右左兼用)(唐草入)	AW· H-7-4  本葺用5分の一の平・ 二の平一体型掛瓦 (右左兼用)剣高(無地)	AW· H-7-5  本葺用5分の一の平・ 二の平一体型掛瓦 (右左兼用)剣高(唐草入)	AW· H-8  R 本葺用5分 平唐草切隅瓦(右)	AW· H-8  L 本葺用5分 平唐草切隅瓦(左)	AW· H-11  本葺用5分うつば 唐草(箱二の平)掛瓦	AW· H-11-2  R 本葺用5分切妻用本掛隅 唐草切隅(尺2寸)(右)	AW· H-11-2  L 本葺用5分切妻用本掛隅 唐草切隅(尺2寸)(左)
AW· H-17-1  L 本葺用5分袖丸瓦 (働き長さ7寸×垂れ3寸)(左)	AW· H-17-2  R 本葺用5分袖丸瓦 (働き長さ7寸×垂れ5寸) (右)	AW· H-17-2  L 本葺用5分袖丸瓦 (働き長さ7寸×垂れ5寸) (左)	AW· H-18  R 本葺用5分谷巴瓦 (右)	AW· H-18  L 本葺用5分谷巴瓦 (左)	AW· H-19  本葺用5分水返し付平瓦 (引掛棧付)(奈良式)	AW· H-20  R 本葺用5分谷瓦 (谷平瓦)(右)	AW· H-20  L 本葺用5分谷瓦 (谷平瓦)(左)
AW· H-25-6-2  本葺用鳥袋 (素丸用)	AW· H-90 (K)  9寸尺平瓦	AW· H-90-6  9寸尺軒巴(長さ尺2寸) (径5寸5分)	AW· J-720 (K)  72判棧瓦	AW· J-800 (M)  80枚物判棧瓦	AW· J-1000 (M)  100枚物判棧瓦	AW· CS-10  S瓦	AW· CS-10-1  S瓦半瓦
AW· M-10-3  尺2角棧切落目板 入り隅(組)	AW· M-10-4  尺2角棧切落目板 出隅(組)	AW· M-11  尺2角棧垂付目板	AW· M-11-1  尺2角棧垂付目板両棧	AW· M-11-2  R 尺2角棧垂付目板 ハフ(右)	AW· M-11-2  L 尺2角棧垂付目板 ハフ(左)	AW· M-11-3  尺2角棧垂付目板 入り隅(組)	AW· M-11-4  尺2角棧垂付目板 出隅(組)
AW· M-13-3  尺5角棧垂付目板 入り隅(組)	AW· M-13-4  尺5角棧垂付目板 出隅(組)	AW· M-14  尺2丸棧切落目板	AW· M-14-1  尺2丸棧切落目板両棧	AW· M-14-2  R 尺2丸棧切落目板 ハフ(右)	AW· M-14-2  L 尺2丸棧切落目板 ハフ(左)	AW· M-14-3  尺2丸棧切落目板 入り隅(組)	AW· M-14-4  尺2丸棧切落目板 出隅(組)
AW· M-16-2  L 尺2角棧垂付石持 万十目板ハフ(左)	AW· M-16-3  尺2角棧垂付石持 万十目板入り隅(組)	AW· M-16-4  尺2角棧垂付石持 万十目板出隅(組)	AW· M-17  尺丸棧垂付目板	AW· M-17-2  R 尺丸棧垂付目板 ハフ(右)	AW· M-17-2  L 尺丸棧垂付目板 ハフ(左)	AW· M-18  尺3角棧垂付目板	AW· M-18-2  R 尺3角棧垂付目板 ハフ(右)
AW· TN-270  270なまこ壁用板瓦 (穴あけ・筋入り)	AW· TN-270-5  270なまこ壁用コーナ ー (長さ382)	AW· J-1002  覆輪(丸張)雲付丸立鬼 (隅鬼兼)2寸~9寸	AW· J-1002  覆輪(丸張)雲付丸立鬼 三つ切8寸~尺2寸	AW· J-1003  覆輪(丸張)雲付降り鬼 3寸~9寸	AW· J-1004  覆輪(丸張)雲付隅鬼 3寸~8寸	AW· J-1005  覆輪(丸張)雲付丸柄振鬼 (東)5寸~9寸	AW· J-1041  覆輪(角張)雲付跨鬼 3寸~9寸
AW· J-1201  影盛台付跨鬼 4寸~7寸	AW· J-1201  影盛台付跨鬼三つ切 7寸~9寸	AW· J-1203  影盛台付降り鬼 (隅鬼兼)4寸~8寸	AW· J-1402  立浪丸立鬼4寸~7寸	AW· J-1402  立浪丸立鬼三つ切り 8寸~尺1寸	AW· J-1403  立浪降り鬼4寸~9寸	AW· J-1404  立浪隅鬼4寸~9寸	AW· J-1501  海津(カイズ)跨鬼 (丸立兼用)3寸~尺1寸
AW· J-1524  旭海津(カイズ) 隅鬼5寸~6寸	AW· J-1525  旭海津(カイズ)柄振鬼 (東)5寸~8寸	AW· J-2001  数珠掛跨鬼(丸立兼用) 4寸~9寸	AW· J-2003  数珠掛降り鬼 (隅鬼兼用)4寸~8寸	AW· J-2005  数珠掛柄振鬼(東) 5寸~8寸	AW· J-3002  古代鬼面丸立鬼 (別注)	AW· J-3003  古代鬼面降り鬼 (別注)	AW· J-4002  鬼面丸立雲吹流し鬼 (別注)

AW・ J-4003  鬼面降り鬼 (別注)	AW・ J-5002  御所丸立鬼 (別注)	AW・ J-5002  御所丸立鬼三つ切 (別注)	AW・ J-5003  御所降り鬼 (別注)	AW・ J-6001  経の巻万十跨鬼 (丸立鬼) (別注)	AW・ J-6003  経の巻万十降り鬼 (別注)	AW・ J-6007  経の巻万十二の鬼 (別注)	AW・ J-6008  経の巻万十唐破風鬼 (別注)
AW・ JO-1  飾り付棟鬼瓦 松に鷹跨鬼 (別注)	AW・ JO-2  飾り付棟鬼瓦 恵比寿跨鬼 (別注)	AW・ JO-3  飾り付棟鬼瓦 松に鶴跨鬼 (別注)	AW・ JO-4  飾り付棟鬼瓦 虎跨鬼 (別注)	AW・ JO-5  飾り付棟鬼瓦 竜跨鬼 (別注)	AW・ JO-7  鯨 (尺〜3尺) (別注)	AW・ JO-8  鷗尾 (別注)	AW・ JO-9  帆立て (中) 紐付 鷹振用 (別注)
AW・ JO-10  飾り付棟鬼瓦露盤 (尺〜4寸) (別注)	AW・ JO-11  飾り付棟鬼瓦立物 (トンガリ) (6寸〜尺) (別注)	AW・ JO-12  鐘馗 (別注)	AW・ JO-13  家紋 (別注)	AW・ JO-14  棟用鬼台 (5〜尺2寸)	AW・ JO-15  降り鬼用台 (5〜8寸)	AW・ JO-16  隅鬼用台 (5〜7寸)	AW・ JO-17  柄振り台 (6〜8寸)

## 防災瓦とは

阪神・淡路大震災以降、建築基準法が定める安全性に応えるために、会員各社が開発した「瓦に爪や突起物」を付けて、耐風性能&耐震性能を高めた「防災瓦」も強風地域で普及しており、地震や台風にも強い瓦として、今や全国区商品になっております。

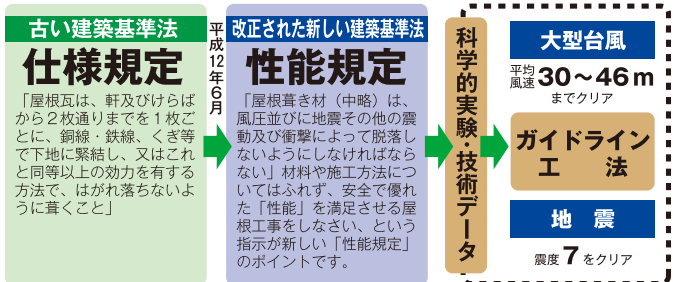


伝統工芸木造住宅震動台実験 (E-ディフェンス)

2棟の切り妻屋根の実物大住宅を使用して、実験で使われた地震加速度は1300ガルという猛烈なものでしたが、「ガイドライン工法」の瓦屋根は1枚もずり落ちず、阪神・淡路大地震クラスの震度7地震に耐える十分な強さがあることが証明されました。

## 「仕様規定」から「性能規定」

また、平成12年6月の建築基準法の大幅な改正により、屋根の工事方法も、それまでの「仕様規定」から「性能規定」に変わり、瓦製造業界と瓦施工業界が「性能規定」に沿った瓦業界独自の「瓦屋根標準設計・施工ガイドライン」を作成しました。このことを受けて、瓦の性能数値をデータ化していくことになりました。この科学的データの基づいた新しい施工方法を示したのが「ガイドライン工法」です。



この工法の耐震性を確認するために、平成19年2月に兵庫県三木市にある「E-ディフェンス」で行われた、京都大学防災研究所の「伝統工芸木造住宅震動台実験」に淡路瓦を「ガイドライン工法」で施工し、実験に参画しました。



瓦引き上げ性能試験風景

棟回転加力試験風景

## <ガイドライン工法とは>

ガイドライン工法は、これまでの災害等の貴重な経験から、建築基準法が求める「性能」以上の構造機能をめざして施工法を提示したものです。住宅設計者や屋根の工事技術者に向け、風圧力や地震力に対する構造計算、標準試験方法などを示した専門的なマニュアルです。実物大の震動実験や風圧テストを何度も繰り返し安全性能を確認するなど、科学的立場からの入念な検証は、一般消費者にも大きな安心を与えています。

# 『淡路瓦』はアスベスト(石綿)等を 含まない「人と環境にやさしい」屋根材

## “瓦と呼べるのは粘土瓦だけ”

『淡路瓦』は自然の粘土を焼成して作る粘土瓦であり、がんの一種である「中皮腫」の原因とされる「アスベスト(石綿)」やシックハウス症候群の原因とされる「ホルムアルデヒド」等を含まない「人と環境にやさしい」屋根材です。“瓦と呼べるのは粘土瓦だけ”こんな言葉には、瓦が伝来して1400年の歴史と伝統に裏打ちされた、そんな誇りも込められています。

## 淡路瓦ご利用に際してのお願い

### 製品に関するお願い(粘土瓦の特性について)

瓦は自然の粘土を原料とした大型厚物窯業製品です。粘土は採掘場所により、その成分・性質は微妙に異なり、また同一場所の採掘でも全く均一ではありません。このように瓦は原料自体が均質化された工業原料ではなく、自然から生まれた粘土を粉砕、調合し、瓦用原料として使用しています。

日本の瓦は約1400年以上前から作られてきましたが、製造技術が飛躍的に進歩し、大量生産ができるようになった現在でも『瓦は天然原料を使った自然素材である』ことをご理解いただき、その特性をあらかじめご承知置き下さい。

- 粘土成分の違いや気圧など気象条件による焼成窯内の雰囲気の変化により、微妙な色ムラが発生している場合があります。
- 焼きもの特有の若干のネジレや寸法のバラツキがある場合があります。また、瓦は重ね合わせて施工していきますので、葺き上げ後に瓦と瓦の間に隙間が発生することがあります。
- 施工後、日焼けによる色あせやホコリの付着などによる色合いの変化が発生する場合がありますが、屋根材としての品質・性能および耐久性を損なうものではありません。
- 陶器瓦(釉薬瓦)は貫入(かんにゅう)と呼ばれる表面亀裂が発生する場合がありますが、これは陶器製品特有の釉薬表面層に発生する亀裂であり、本体素地までの亀裂ではなく品質の劣化を伴うものではありません。
- 陶器瓦(釉薬瓦)には釉薬面にピンホールと呼ばれる小さい気泡や粘土素地の露出が発生している場合があります。釉薬の気泡や粘土に含まれる有機物などが燃焼して発生するものですが、焼きものとして、また屋根材としての品質上の問題は一切ありません。
- いぶし瓦は経年変化による黒ずみなどの色変化が発生する場合がありますが、これは自然素材であるいぶし瓦特有の現象であり、品質の劣化を伴うものではありません。
- いぶし瓦は粘土に含まれる鉄分が瓦表面にある場合、雨水により点状の赤錆が発生する場合がありますが、これは屋根材としての品質上の問題は一切ありません。
- 製品は改良のため予告なく変更することがあります。
- 製品カタログ等の色調は、印刷のため実際の色とは多少異なる場合があります。



人にやさしい



淡路瓦工業組合

〒656-0332 兵庫県南あわじ市湊134 TEL: 0799-38-0570 FAX: 0799-37-2030 <http://www.a-kawara.jp/>